

私の平和

成瀬中学校 徳田 瑛太

『死んだ人をまるで動物のフンのように…』私が、平和についての国民意識を持つようになったのは、小さい頃にテレビで放送されていた「火垂るの墓」です。小さいながらもとても強い衝撃を受け、同時に目を閉じてしまうほど悲惨なものでした。

物語は1945年、太平洋戦争真っ只中という時代背景で、清太と節子が生きるために一生懸命に生きる生き様が描かれています。

1シーン、1シーン映画の最初から最後まで余すことなく当時の様子がわかる内容になっています。文の最初の言葉は映画の最初のシーンの清太がいきなりぐったり柱に座り込んでいるシーンを見て思ったことです。通りかかる人たちはみんな清太をみて汚いなどと声を上げています。私はこれに対し、戦争で大変でもそんな声を上げることはとても失礼だと感じました。しかし、どうでしょう。私はこの境遇に立った時、他の方と同じ考えをするのではないかと考えます。食料がとても不足している中、全国民いろいろな問題を抱えて生きています。子供に食べ物をあげないといけない、戦争に出て自分が国民を守らないといけない、そんなことを思って毎日生きているんだと思います。だから私は他人を気遣う心なんか持てないんだと考えました。戦争は人の心でさえ簡単に変えてしまえるんだと改めて強く感じました。

そして、私は、平和とは言葉では一言でいい表せてもその一言にさまざまな思いを込めることはできないと思います。私の平和とは幼児達が笑顔でいられる持続的な環境です。幼児は良くも悪くも顔に表情が出やすく、ストレスなどがあるとすぐわかります。そんな小さな子供だからこそ、その国の状況がどんなものなのかわかる気がするのです。

さて、そんな子供を正面に置いて今の日本が平和なのか考えてみることにしました。最近の小・中学生は、今までよりもずっと大人びていると感じます。その原因は「インターネット」の影響が強いのでしょう。私もその子供の一人です。インターネットは世界さまざまな人とつながり合えるという利点がありますが、その反対に悪い点もあるということをこの作文を書くにあたって知りました。インターネットは子供が本

来行わなければならない「学び」ができない場所だと思います。人を無意識に批判してしまう私たちはインターネットでは、「人」であるため、その発言を見た人々はその発言に対し批判を行う、というのが今のインターネットです。批判を受けた子供は懲りずにまたその人達に対して批判を繰り返す…暴力的なことを悪いことだと思わずにしてしまう今のインターネットが今後も続いてしまうと、そのような架空での戦争が続いてしまうのです。そんな今の日本が平和だとは到底思えません。

ただ、今の日本には、戦争がなぜ起きたのか、なぜなくなるのかを真剣に考える場と、ネットリテラシーなどの授業を通して、他人を尊重する心や相手の立場に立って物事を考えることなどの授業が増えているといういい風潮もあります。小学校ではあまり戦争について詳しくは取り上げられていませんでしたが、中学生になってからは詳しく知る機会がありました。

小学生だとあまり理解できないところはあるかもしれませんが、戦争について早くに触れておき、平和の意識を芽生えさせるのも、大切だと感じました。また最近だと自分の絶対的な意見が通せない人が増えていると思います。大多数の人の意見に安心感を持ち、自分の意見よりそちらを優先することは、平和な日本を作るのに良いことではないと感じています。いじめなどがその例で、多くの人が一人を虐めると、みんなは多数派の意見に流され、いじめが起きます。多数派が必ずしも正しいなんてことはないのです。表面上の正義にみんな騙されて内面の真実など見てもいないのです。日本もこうなる予想がつく場面が出てくると思います。ニュースなどに流れる表面的なメリットだけを見て良い、と思う人が多く内面のデメリットを知った人もそちらに流されてしまう…結果としてデメリットが争いにつながってしまうと思いました。

今回多方面から見た平和を調べ、いろいろな角度から見ないと、表れない平和の裏側が見えました。争いを止めることが平和ではなくその先にある人間同士のいざこざまでも無くして、全員が平和だと思った時、またあのような悲惨なことは起こらなくなると思います。

私たちが思う平和のために…